

CASBEE あいち

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BC_2016(v3.0)_AICH

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社高津製作所 豊田新工場(Ⅱ期)	階数	地下0階地上1階
建設地	豊田市緑ヶ丘6丁目41番2,41番7	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	60人
気候区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年10月 予定	評価の実施日	2023年12月5日
敷地面積	18,290 m ²	作成者	大平 英志
建築面積	3,296 m ²	確認日	2023年12月11日
延床面積	3,296 m ²	確認者	山田 英樹



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み #DIV/0!
③上記+②以外の #DIV/0!
④上記+ #DIV/0!

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) 25.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3.1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2.2 耐用性・信頼性、Q-2.3 対応性・更新性

LR-2.2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3.1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
株式会社高津製作所 豊田新工場(Ⅱ期)

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄					建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体									
配慮項目	重点項目	独自基準	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点										
Q 建築物の環境品質																2.9								
Q1 室内環境																-								
1 音環境																-								
1.1 室内騒音レベル																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 遮音																-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能																-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能																-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音																-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境																-								
2.1 室温制御																-								
1 室温																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 ソーン別制御性																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境																-								
3.1 昼光利用																-								
1 昼光率																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策																-								
1 昼光制御																5.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3 照度																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境																-								
4.1 発生源対策																-								
1 化学汚染物質																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気																-								
1 換気量																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理																-								
1 CO ₂ の監視																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能																-								
1 機能性																-								
1.1 機能性・使いやすさ																-								
1 広さ・収納性																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性																-								
1 広さ感・景観 (天井高)																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理																-								
1 維持管理に配慮した設計																3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保																-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性																0.5	3.1	0.52	-	-	-	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振																0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能																3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数																0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数																-	5.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																-	4.0	0.08	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																-	3.0	0.15	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔																-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性																0.1	3.2	0.19	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備																3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備																3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3 電気設備																3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法																3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備																3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.4	4.0	0.48	-	-	-	4.0
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	-
1 階高のゆとり			15.9m	5.0	0.60	-	-	-	-
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3ton/m ²	3.0	5.0	0.31	-	-	-
3.3 設備の更新性			②	0.3	3.1	0.38	-	-	-
1 空調配管の更新性			構造部材を痛めることなく更新可能	3.0	3.0	0.17	-	-	-
2 給排水管の更新性				3.0	4.0	0.17	-	-	-
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57	-	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性									3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			対象外	3.0	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-	-	-	-
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.6
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			節水器具	3.0	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.4	0.63	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			②	-	3.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			独自	-	3.0	0.24	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	0.20	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	5.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-
1 消火剤				-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)				-	5.0	0.50	-	-	-
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			①	#DIV/0!	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	3.0	0.50	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮				0.5	3.3	0.50	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 騒音			独自	-	3.0	0.50	-	-	-
2 振動			独自	-	3.0	0.50	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-
2 砂塵の抑制				-	1.0	-	-	-	-
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制				0.2	4.7	0.20	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	5.0	0.70	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	4.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

株式会社高津製作所 豊田新工場(Ⅱ期)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00
② 資源の有効活用			3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22
Q2-3	対応性・更新性	4.0	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19
③ 敷地内の緑化			2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17
			外構緑化:25.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
		(評価ポイント)	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 株式会社高津製作所 豊田新工場(Ⅱ期)

計画上の配慮事項	
総合	地域の景観に配慮した工場を目指し、省エネや緑化にて環境保全に貢献する。
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	建物の長期利用を考慮し、機能性や耐用性の向上に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	緑地面積を確保し、周囲の住宅街を考慮した外構計画とした。
LR1 エネルギー	自然エネルギーを取り入れるため、通風、採光の利用を行う。
LR2 資源・マテリアル	節水型衛生器具の採用やリサイクル資材を利用するなど、資源消費の低減、環境負荷削減に配慮した。
LR3 敷地外環境	大気汚染防止、風害、光害などへ配慮した。
その他	